



神と人を結ぶ祈りの躍動「神楽」

京築神楽

ガイドブック

改訂版

京築神楽

神と人を結ぶ祈りの躍動「神楽」

古来、人々は神の言葉を聞くことで様々な厄難から逃れ、五穀豊穡と生命の再生を祈りました。その儀式として演じられたのが神楽です。

京築地域では今でも三十もの神楽団体が活動し、春や秋の祭りの際に多くの神社で奉納されます。

躍動感あふれるお囃子のリズムときらびやかな衣装。優雅なそして迫力ある舞いと、スピード感あふれるダイナミックな身のこなし。

このガイドブックでは、京築地域の各神社で奉納される神楽の魅力をご紹介します。ガイドブックを片手に、「神楽の里」を訪れていただければ幸いです。

京築連帯アメニティ都市圏推進会議
神楽の里づくり推進協議会

Keichiku KAGURA CONTENTS GuideBook

京築神楽	3
神楽と修験	5
京築神楽カレンダー	7
京築神楽奉納場所・神楽団体紹介	11
吉富町・上毛町	13
豊前市	17
築上町	21
みやこ町	25
行橋市・苅田町	29
京築神楽演目紹介	
式神楽	33
奉納神楽	35
京築地域立ち寄りスポット	37



京築神楽

福岡県北東部に位置する京築地域。豊かな自然に恵まれた里では、古くから谷筋ごと集落ごとに「神楽」が継承されています。

古来、人々は折に触れ神様をお迎えし、その言葉聞くことで様々な厄難から逃れ暮らしの安寧をもたらそうとしました。その言葉を「託宣(たくせん)」、「神座(かむくら)」といい、「神楽」の語源とも言われています。京築地域には三十もの神楽団体が現存し、神と人をつなぐ躍動感あふれるお囃子や舞が地域の人々によって大切に守られ、子どもたちへと伝えられています。

駒仙みさき (御先)

「古事記」「日本書紀」の天孫降臨の場面を神楽にした演目とされています。天津神あまである邇邇芸命につかみの従者・天鈿女乃命あまのうずめのみこと (幣方へつかた)と、国津神くにづかみである道案内役の猿田彦之神(鬼)が登場します。栗



神樂と修験道

京築神樂の演目には、湯立神樂に修験道の影響を色濃く
見ることができます。

高い柱に登る鬼の姿や、火のついた炭の上を裸足で歩く
神職の姿は、山伏の修行を彷彿とさせます。

湯立神樂

ゆ だて か ぐら

燃え盛る炎で湯を沸かした釜（湯
釜）の回りで鬼と幣方が舞を繰り広
げます。その後、鬼は高さ10mの柱
（斎鉢）に登り、柱の先端の大幡を切
り落とした後、アクロハティックな
演技で観客を沸かせます。最後に炭
の上を裸足で渡る火渡りで火を鎮
めます。





9月

上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	下旬	下旬	中旬	上旬	上旬			
上	上	吉	吉	豊	豊	豊	豊	行	築	築	吉	豊	上	吉	刈	豊	上	行	上	豊	豊	
友枝神楽	成恒神楽	吉土屋神楽	吉吉富神楽	豊三毛門神楽	豊岩屋神楽	豊黒土神楽	豊大村神楽	行道場寺神楽	築小原神楽	築赤幡神楽	吉土屋神楽	豊山内神楽	上友枝神楽	吉吉富神楽	刈南原神楽	豊山内神楽	上成恒神楽	行稲童神楽	上友枝神楽	豊大村神楽	豊大村神楽	
葉師神社(吉富町小犬丸)	八幡古表神社(吉富町高浜) <small>※法蓮教一五ノ字一部路付近</small>	広津上公民館(吉富町広津)	宇賀貴船神社(吉富町小犬丸)	貴船神社(豊前市三楽)	大山祇神社(豊前市上川底)	貴船神社(豊前市小石原)	清水神社(豊前市清水町)	北山神社(行橋市道場寺)	小原正八幡神社(築上町小原)	赤幡八幡神社(築上町赤幡)	幸子古区公民館(吉富町幸子)	貴船神社(豊前市下川底)	事比羅神社(吉富町広津)	広津下地区(公民館)(吉富町広津)	錦町稲荷神社(みやこ町豊津)	道祖神社(豊前市才尾)	大ノ瀬(公民館)(上毛町大ノ瀬)	安浦神社(行橋市稲童)	稲荷神社(宇佐市北宇佐)	厳島神社(豊前市八屋)	須佐神社(豊前市鳥越)	
秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	八朔祭

10月

中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	上旬	上旬		
吉	刈	豊	豊	豊	豊	豊	豊	吉	豊	豊	豊	豊	豊	豊	上	上	豊	豊	豊	吉	吉	
吉富神楽	新津神楽社中	黒土神楽	大村神楽	豊岩屋神楽	豊山内神楽	豊山内神楽	豊山内神楽	吉土屋神楽	豊山内神楽	豊山内神楽	豊黒土神楽	豊岩屋神楽	豊山内神楽	豊大村神楽	上友枝神楽	上成恒神楽	豊三毛門神楽	豊大村神楽	豊黒土神楽	吉土屋神楽	吉吉富神楽	
春日神社(吉富町今吉)	大原八幡神社(菊田町新津)	石清水八幡神社(豊前市久路土)	千束八幡神社(豊前市千束)	大山祇神社(豊前市岩屋)	貴船神社(豊前市狭間)	貴船神社(豊前市中川底松尾川内)	貴船神社(豊前市上川底立岩)	壺神社(吉富町土屋)	貴船神社(豊前市中川底大禰)	嘯吹八幡神社(豊前市山内)	乙女八幡神社(豊前市吉木)	※山内神楽岩屋神楽で交代で実施	日吉神社(豊前市大河内)	貴船神社(豊前市上川底轟)	友愛会館(吉富町幸子)	貴船神社(吉富町別府)	春日神社(豊前市恒富)	貴船神社(豊前市吉木)	※3年に1回	喜連島公民館(吉富町小犬丸)	昭和公民館(吉富町広津)	
秋祭	秋季大祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭

11月

上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	上旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	
上	上	上	豊	豊	豊	上	上	豊	豊	豊	豊	上	豊	上	上	上	上	豊	上	
唐原神楽	唐原神楽	成恒神楽	大村神楽	岩屋神楽	山内神楽	友枝神楽	成恒神楽	三毛門神楽	山内神楽	黒土神楽	大村神楽	唐原神楽	大村神楽	唐原神楽	友枝神楽	成恒神楽	唐原神楽	成恒神楽	友枝神楽	
貴船神社 (中津市高瀬)	貴船神社 (上毛町垂水)	貴船神社 (中津市原口)		大山祇神社 (豊前市青畑) <small>※山内神楽・岩屋神楽・大村神楽のいずれか</small>		七社神社 (上毛町原井)	貴船神社 (中津市三光小袋)	春日神社 (豊前市三毛門)	合八幡神社 (豊前市天和)	沓川神社 (豊前市沓川) <small>※他団体の場合あり</small>	甲神社 (豊前市大村)	貴船神社 (中津市相原)	事代主神社 (豊前市今市)	貴船神社 (宇佐市安心院)	貴船神社 (中津市三光土田)	貴船神社 (中津市三光土田)	貴船神社 (上毛町下唐原)	貴船神社 (中津市万田)	八社神社 (上毛町東上)	
秋祭	秋祭	秋祭		秋祭		秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭

12月

年始	年始	年始	年始	年始	年始	年始	年始	年始	年始	年始	年末	年末	年末	年末	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	中旬	上旬
築	築	吉	吉	刈	豊	豊	行	行	行	行	築	築	豊	行	上	上	吉	豊	上	豊	上	上	吉
寒田神楽	小原神楽	土屋神楽	吉富神楽	新津神楽社中	中村神楽	黒土神楽	元永神楽	今井神楽	今井神楽	今井神楽	金富神楽	伝法寺神楽	大村神楽	道場寺神楽	友枝神楽	唐原神楽	土屋神楽	大村神楽	唐原神楽	大村神楽	大村神楽	唐原神楽	吉富神楽
山霊神社 (築上町寒田)	綱敷天満宮 (築上町高塚)	八幡古表神社 (吉富町小犬丸)	中津大神宮 (中津市二ノ丁)	大原八幡神社 (刈田町新津)	角田八幡神社 (豊前市中村)	石清水八幡神社 (豊前市久路土)	須佐神社 (行橋市元永)	須佐神社 (行橋市元永)	熊野神社 (行橋市今井)	熊野神社 (行橋市今井)	金富神社 (築上町湊)	岩戸見神社 (築上町伝法寺)	大富神社 (豊前市四郎丸)	北山神社 (行橋市道場寺)	貴船神社 (宇佐市荒木)	貴船神社 (上毛町上唐原)	八坂神社 (中津市三保)	大歳神社 (豊前市四郎丸)	貴船神社 (中津市湯屋)	琴牧神社 (豊前市大村)	貴船神社 (中津市高瀬)	川上神社 (宇佐市金屋)	
元旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	歳旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	元旦祭	除夜祭	除夜祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭	秋祭

神楽の里

五穀豊穰

恵みに感謝

想いを込めて

神楽舞う



「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」

京築地域を中心とした旧豊前国(福岡県北東部~大分県北部)の神楽は、「豊前神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されており、京築地域では、現在、28の団体が国指定の神楽として活動しています。



吉富町

地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
1	宇賀貴船神社(小犬丸)	山国川河川敷 20台	
2	八坂神社(3年に2度)(直江) ※八坂神社・界木公民館で交代	10台	
3	界木公民館(3年に1度)(直江) ※八坂神社・界木公民館で交代	10台	
4	喜連島公民館(小犬丸)	山国川河川敷 20台	◎
5	貴船神社(別府)		◎
6	幸子古区公民館(幸子)	吉富駅 90台	◎
7	広津下地区(公民館)(広津)	吉富駅 90台	
8	広津上公民館(広津)	吉富駅 90台	◎
9	事比羅神社(広津)	5台	◎
10	春日神社(今吉)	吉富駅 90台	◎
11	昭和公民館(広津)	吉富駅 90台	
12	壺神社(土屋)	10台	◎
13	薬師神社(小犬丸)	吉富駅 90台	◎
14	友愛会館(幸子)	20台	◎
15	八幡古表神社(小犬丸)	10台	◎



イラスト:原賀いずみ

吉富町



上毛町

地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
16	貴船神社(宇野)	20台	◎
17	貴船神社(下唐原)	10台	◎
18	貴船神社(吉岡)		◎
19	鶴岡八幡神社(西友枝金代)		
20	貴船神社(重吉)		
21	貴船神社(垂水)	10台	
22	大ノ瀬公民館(大ノ瀬)	20台	◎
23	貴船神社(土佐井)		
24	貴船神社(八ツ並)	20台	◎
25	吉富神社(成恒)	30台	◎
26	七社神社(原井)		◎
27	若八幡神社(中村)	30台	◎
28	天満宮・六社神社(上唐原)		
29	八坂神社(垂水)	10台	
30	八社神社(西友枝横川)		◎
31	八社神社(東上)	5台	◎
32	八幡神社(百留)		
33	安雲公民館(安曇)	5台	◎



道の駅
「しんよしとみ」



上毛町

西友枝体験交流センター
ゆいきらら

上毛町役場
大平支所



唐原神楽

とうばるかぐら

上毛町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
唐原神楽講

明治30年代後半に「佐知の佐助」こと広沢松次郎氏を師匠として、下唐原貴船神社の氏子の若者により組織されました。現在は「唐原子供神楽」も結成し、貴船神社への奉納のほか、地域の行事においても精力的に活動しています。



土屋神楽

つちやかぐら

吉富町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
土屋神楽講

築上郡史によると江戸・安政年間が起源とされています。戦後一時途絶えましたが、平成に入り、元講師の指導のもと復興を成し遂げました。地元の壺神社、八幡古表神社のほか町内外での神楽奉納や、各施設等への慰問も積極的に行っています。また、神楽教室を開き後継者育成、継承にも努めています。



友枝神楽

ともえだかぐら

上毛町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
友枝神楽講

明治20年頃、「佐知の佐助」こと広沢松次郎氏から上毛町の東上・八坂神社の氏子に伝えられたのが始まりです。現在は吉富町や中津市まで活動の範囲を広げ、子ども神楽の指導をするなど、神楽の保存や後継者の育成に努めています。



吉富神楽

よしとみかぐら

吉富町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
吉富神楽講

平成5年に地元の神楽好きの若者が集い、練習を開始し、平成11年に吉富神楽として旗揚げしました。京築神楽のなかでは最も新しい神楽講ですが、勇壮で見応えのある舞いを心がけ、日々修練を重ねています。観客に感動と思い出を残すことができるような神楽講を目指し、取組んでいます。



「めん」面

神楽豆知識

演じる役にあわせて鬼、姫、爺、婆など、特徴のある表情豊かな面がある。面にはそれぞれに神名がつけられており、面をつけることで、霊的な力が宿り、舞う人を守ってくれるという考えがある。面は地元で彫られたものがかなりあり、基本的に能面などを参考に地元の有志が打った(製作)と考えられる。先人より受け継がれている古面を所有する団体も多く、古いものは江戸期まで遡る。



上毛町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
成恒神楽講

成恒神楽

なりつねかくら

上毛町成恒には明治10年代から矢幡社家に伝わる神楽が存在したとされています。昭和10年頃まで舞われていましたが、後継者不足により中断。現在の神楽講は、昭和55年に地元有志により結成されたものです。成恒・吉富神社を本社とし、「御先」に代表される華やかで力強い舞が特徴です。



神楽を観賞される皆さまへ

神楽は地元の氏子さんが五穀豊穡に感謝し家内安全を祈って奉納するものです。見学に当たっては迷惑がかからないように配慮をお願いします。また、写真を撮影する際は、フラッシュの使用・過度なシャッター音や視界を遮るなどの行為は、他のお客さまのご迷惑になりますので、ご遠慮願います。三脚を使った撮影は、他の見学者のご迷惑にならないようにお願いします。



地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
1	稲成神社(下河内)		
2	乙女八幡神社(吉木)		
3	角田公民館(角田)	20台	
4	角田八幡神社(中村)		◎
5	貴船神社(永久)		
6	貴船神社(下川底)		
7	貴船神社(吉木)		
8	貴船神社(狭間)		
9	貴船神社(上川底藪)		
10	貴船神社(三楽)		
11	貴船神社(市丸)		
12	貴船神社(小石原)		

地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ	地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
27	深山八幡神社(河原田)			13	貴船神社(中川底松尾川内)		
28	須佐神社(下河内)			14	貴船神社(荒堀)		
29	水神社(畑)			15	琴牧神社(大村)		
30	菅原神社(八屋)			16	沓川神社(沓川)		
31	清原神社(下河内)	30台		17	恵比寿神社(宇島)		
32	清水神社(清水町)			18	巖島神社(八屋)		
33	石清水八幡神社(久路土)	10台	◎	19	甲神社(大村)		
34	千束八幡神社(千束)			20	合八幡神社(天和)		
35	足切神社(赤熊)			21	事代主神社(今市)		
36	大歳神社(四郎丸)			22	七社神社(岩屋)		
37	大山祇神社(岩屋)			23	宗像神社(薬師寺)		
38	大山祇神社(上川底)			24	春日神社(恒富)		
39	大山祇神社(青畑)			25	春日神社(三毛門)		
40	大西神社(大西)			26	鬼木集会所(鬼木)	5台	◎
41	大富神社(四郎丸)	30台	◎				
42	堂山神社(宇島)						
43	道祖神社(才尾)						
44	日吉神社(大河内)						
45	嘯吹八幡神社(山内)	30台					
46	楡八幡神社(八屋)						
47	大山祇神社(鳥井畑)						
48	大山祇神社(篠瀬戸符)						
49	須佐神社(篠瀬)						
50	貴船神社(中川底大稗)						
51	貴船神社(上川底立岩)						





黒土神楽

くろつちかぐら

豊前市 「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
黒土神楽講

明治7年に廃止になった旧豊前国の上毛郡の社家神楽が明治9年に伝承されたもので、18世紀初期以降の「岩戸神楽」の形態、演目が「式神楽」として大筋そのままの形で引き継がれています。現在、秋祭りの際に、鎮守の社で「五穀豊穰」「無病息災」等を祈願し奉納し、子ども神楽も活発に活動しています。本社は石清水八幡神社。



岩屋神楽

いわやかぐら

豊前市 「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
岩屋神楽講

昭和3年の御大典記念行事を迎えるにあたり、岩屋地区でも神楽を奉納すべく岩屋神楽講を結成したのが始まりです。発足後、他地域の神楽団体とも積極的に交流を図り、絶えることなく舞われてきました。また、近郊の神楽の演目を取り入れるなど積極的に活動しています。本社は七社神社。



三毛門神楽

かみげかと

豊前市 「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
三毛門神楽講

明治10年頃、神職の高橋氏の指導により発足されたとされています。伝承される鬼面の一つは、現存する豊前の神楽面で最も古いとされています。伝統を守りながらも、創作神楽を取り入れるなど、意欲的に神楽の発展に取り組んでいます。本社は春日神社。

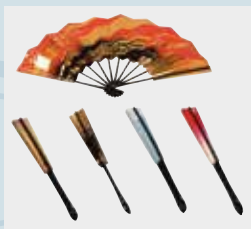


山内神楽

やまうちかぐら

豊前市 「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
山内神楽講

縁起によると、約1100年前から嘯吹(うそぶき)八幡神社の初山家に伝承されてきたといわれています。明治期に神職から氏子へと受け継がれ、現在の形態を整えました。嘯吹八幡神社の春の大祭である清原神事では、湯立神楽が奉納されます。子ども神楽にも精力的に取り組んでいます。



扇
「おうぎ」

舞に用いられる扇子は、様々な模様が描かれており、舞台上で見栄えがするように、大きなものが使われることもあります。



「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
大村神楽講

大村神楽

豊前市
明治10年頃、大富神社の神職から氏子に伝えられたのが始まりです。その後130年以上欠かすことなく、豊前市内各所の鎮守の杜で五穀豊穡を祝い喜びながら神楽を奉納し続けてきました。大晦日から元旦にかけての大富神社除夜祭では、隔年で、湯立神楽を奉納しています。

おおむらかくら

「ゆにわ」 斎庭
「ゆいしん」 斎鉾



湯立神楽の舞台は、全体を竹や木、網やロープで囲み、神に五行幣をつけて四方に取り付けられる。湯立神楽はこの中で行われる。

斎鉾は舞所の中央部に建てられ、杉・ヒノキや青竹を三本のロープで引っ張り、頂上の部分には五行神を書いた大幡を吊り下げて吹き流す。



「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
中村神楽保存会

中村神楽

豊前市
江戸時代に社家神楽として奉納されていたとされています。明治中期から神幸祭や秋祭りに神楽を奉納していましたが、戦時中の混乱により、中断を余儀なくされました。昭和23年頃に有志により神楽講が結成され、昭和48年に現在の中村神楽保存会が発足しました。また、中村子ども神楽としても市内のイベントや文化祭などで神楽を披露し、一般市民に親しまれています。本社は角田八幡神社。

なかむらかくら



地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
1	赤幡八幡神社(赤幡)		◎
2	小原正八幡神社(小原)		◎
3	貴船神社(櫛原)		◎
4	山霊神社(寒田)	5台	◎
5	綱敷天満宮(高塚)	150台	◎
6	岩戸見神社(伝法寺)	50台	◎
7	上り松正八幡神社(上り松)		◎
8	金富神社(湊)	5台	◎
9	満田神社(安武)	5台	◎
10	伝法寺生活改善センター(伝法寺)	10台	◎



古民家食庵
伝法寺の庄

6 10

● 本庄の大楠



3

築上町



4

● 老人いこいの家「やまと」

32

● 城井ノ上城址



32





岩丸神楽

いわまるかぐら

築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
岩丸神楽講

岩丸神楽の起源は、一説には平安時代まで遡るとも伝えられています。戦時中、講員不足により中断しましたが、昭和21年に地元の青年が集まり、岩丸神楽講として復活し、アレンジを加えながら、見る人を楽しませることを優先した神楽が特徴です。



赤幡神楽

あかはたかぐら

築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
赤幡神楽保存会

鎌倉初期頃から明治初期まで旧築城郡十六社家の神官により神楽が舞われ、各神社の祭礼で奉納されてきました。明治に入り、神職の神楽が禁じられたのを憂い(神職演舞禁止令)、神職が赤幡八幡神社の氏子に伝授を依頼したのが始まりです。伝統と格式を重んじた神楽です。



小原神楽

おばらかぐら

築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
小原神楽講

明治初期、岩戸見神社宮司より伝承され、代々受け継がれており、現在は地元の小学校の児童にも授業の一環として定期的に神楽を指導しています。小原神楽の囃子は多くの節回しと組み合わせを持っているのが特徴です。初代の舞い方からほぼ忠実に伝わっており、格調高いものとなっています。本社は小原正八幡神社。



櫛原神楽

いちぎばるかぐら

築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
櫛原神楽講

昭和29年に鬼の衣装と神楽面を寄贈されたのを契機に、扇谷神楽(みやこ町)から貴船神社の氏子に伝えられ、奉納されるようになったのが始まりです。子どもの頃に参加していた若い世代の勧誘にも努め、地域をあげて神楽の継承に努めています。



築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
湊金富神楽保存会

金富神楽

きんとみかくら

明治初期まで旧築城郡十六社家によって構成され、各神社で奉納されてきました。戦後、地元の青年団により復活し、若者が中心となって継承されてきました。奉納神楽のほか、町内各地のイベントにも積極的に参加しています。本社は金富神社。

綱御先の綱は蛇を表しているときれ、紅白等の布縄で紙垂が挟み込まれているものや、藁蛇が使われる。

また、大蛇退治の大蛇には藁製の他に、蛇頭に布胴の蛇や既製の造り物が使用される。

「つな・わらひ」 綱・藁綱



築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
寒田神楽講

寒田神楽

さわだかくら

江戸時代の寛文5年(1665年)に神職が鎮火祭を始めたことが起源であるとされています。明治中期に岩戸見神社宮司により直伝され、一度も絶えることなく奉納されています。昔は舞い方、囃子方共に、世襲制により受け継がれていましたが、昭和43年、氏子であれば誰でも舞えるよう改められ、宮司らを中心に神楽講が発足しました。本社は山霊神社。



築上町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
岩戸見神社岩戸神楽伝法寺保存会

伝法寺神楽

でんぼうじ
かくら

明治維新後、当時、宮司だった熊谷氏が神官とともに氏子に神楽を伝授し、これが今日の築上町に伝わる神楽の礎となっています。伝法寺神楽は伝承して以来、中断することなく現在まで続いています。現在は、本社である岩戸見神社への奉納の他にも、要請があれば、各地の神社での奉納にも応じています。



みやこ町

地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
1	横瀬公民館(犀川横瀬)	30台	◎
2	上貴船神社(隔年)(国分) ※上貴船・下貴船で隔年実施		
3	下貴船神社(隔年)(国分) ※上貴船・下貴船で隔年実施		
4	上木井公民館(隔年)(犀川木井馬場) ※上木井・下木井隔年で実施	20台	◎
5	下木井公民館(隔年)(犀川木井馬場) ※上木井・下木井隔年で実施	20台	◎
6	錦町稲荷神社(豊津)	5台	◎
7	上伊良原公民館(犀川上伊良原)	10台	◎
8	上高屋公民館(犀川上高屋)	30台	◎
9	鏡畑公民館(犀川鏡畑)		◎
10	徳矢神社(光富)	15台	◎



みやこ町



永沼家住宅

7





光富神楽

みつとみかぐら

みやこ町

〔国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽〕
光富保存会

光富神楽は明治35年前後に、赤幡神楽を伝承して始まったとされています。途中、講員の減少により中断が2度ありましたが、昭和56年頃、有志により神楽保存会が結成されました。今では、本社である徳矢神社の春祭で奉納しているほか、様々なイベントに参加し、幅広く活動しています。



横瀬神楽

よこせかぐら

みやこ町

〔国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽〕
横瀬神楽講

赤幡神楽の流れをくむ神楽で、自然の恵みを願い「雨乞いには欠かせない」神楽としても親しまれています。戦後、一時期途絶えましたが地元有志により復活。昭和50年に保存会が発足し、舞い手も観衆も楽しめる神楽を目指し、地域と共にある神楽として広く親しまれています。本社は若宮八幡宮。



上高屋神楽

かみいたかや
かぐら

みやこ町

〔国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽〕
上高屋神楽保存会

大正14年、蔵持神楽(みやこ町)の泉氏から奏楽を習ったのが始まりとされています。その後、昭和2年に上高屋神楽講が発足しました。戦争により、講員が減少しましたが、30年ほど前から小学生に神楽を伝授するようになり、平成5年には上高屋神楽保存会に改称しました。基本を忠実に守ることにより、伝統的な神楽を舞っています。本社は橘八幡神社。



上伊良原神楽

かみいらはら
かぐら

みやこ町

〔国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽〕
上伊良原神楽保存会

明治29年、当時の上伊良原村の村内・中村集落の若者により赤幡流直伝とされる、松丸神楽(築上町)を習得し、高木神社奏楽社として発足したのが始まりとされています。過疎化により講員が減少したため、保存会を結成し再出発。現在は活発な活動を続けています。本社は高木神社。



【たかき・たわ】
榊・笹

笹は、手笹神楽などで用いられる大振りのもつと細女などが持つ小ぶりのものがある。

太刀は現在、殆ど模造刀が使用されているが、実際に物を切る場面がある演目などでは真剣を使用する団体もある。

【たち】
太刀



弓矢には、魔物を射落とす神聖な力があるとされ、神楽の中で魔物を倒すために使われる重要な小道具のひとつである。

【ゆみや】
弓矢



🎧 神楽豆知識



燈焔神楽

かぶらあぶみはた

みやこ町

【国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽】
燈焔神楽保存会

大正12年、大山祇神社に新たな神輿が奉納されたのを機に、松丸神楽の中川氏を招いて習得したのが始まりです。戦中・戦後の2度中断しましたが、昭和55年燈焔小学校の百周年の際、行事の一環として舞ったことをきっかけに、燈焔神楽保存会が復活。激しい動きが特徴の舞となっています。



【おんづえ】
鬼杖

魔除け・招福の力があり、死者を蘇らせるほどの霊力を持つ杖。「オンズエ」、「オニンボウ」、「シカンジョウ」「シンの杖」などともいう。90～120cmほどの竹を使い、両側には切紙で作った房が付けられている。

棒の先に紙垂という白紙をとりつけたもので、神官が魔を祓い、お清めをするために使われる。



【おんづえ】
御幣



行橋市

地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
1	安浦神社(稲童)	30台	◎
2	貴船神社(行事)		
3	熊野神社(今井)	6台	◎
4	今井市場 神事場(今井)		
5	須佐神社(元永)	10台	◎
6	正ノ宮 正八幡神社(行事)	10台	◎
7	道場寺本区学習等供用施設(道場寺)	10台	◎
8	北山神社(真菰)		◎
9	北山神社(道場寺)	10台	



苅田町

地図番号	奉納場所	駐車場	トイレ
10	菅原神社(上片島)		
11	大原八幡神社(新津)	8台	
12	山王権現(等覚寺)		◎

苅田町





道場寺神楽

どうじょうじ
かぐら

行橋市

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
道場寺神楽講

明治7年に築上郡赤幡神楽から教えを受けることにより伝承されたとされます。昭和20年頃、戦争で講員が減少して存続が危ぶまれたため、女性に神楽が伝授された歴史を持っています。本社は英彦山の北方にあることからその名が付いたとも言われる北山神社。5月の春祭りや10月の秋祭り、元旦祭で神楽が奉納されます。



稲童神楽

いなどうじかぐら

行橋市

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
稲童神楽保存会

明治26年頃大分八幡神社の社家から教わったのが始まりとされています。昭和10年頃に戦争で一時中断しましたが、昭和40年頃に復活し現在に至っています。平成25年には「子供神楽塾」を発足し、後継者育成を図るとともに、各イベントや奉納神楽に出演しています。本社は安浦神社。



今井神楽

いまいかぐら

行橋市

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
今井神楽講

今井神楽講として、小原神楽の指導も受けながら昭和13年に活動を始めました。その後幾度かの中断を経て、平成16年に復活を目指して研修会として再び発足し、神社の祭礼をはじめ竣工式、文化祭、敬老会等で積極的に奉納しています。本社は今井の氏神である熊野神社。



元永神楽

もとなががぐら

行橋市

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
元永神楽保存会

昭和32年、かつて行橋市にあった下正路神楽の講員が区の青年団に神楽を教えたのが始まりです。行橋市内外で神楽を奉納するなど盛んに活動しましたが、一時期中断となりました。平成9年神楽同好会として復活し、現在は他地域からの参加や女性の参加も可能で、自由な気風が特徴です。本社は須佐神社。



新津神楽社中

あらつかぐら
しやぢゆう

苅田町

海龍の杜

平成17年に新津地区の活性化を図るために、独学で神楽を始めました。大原八幡神社に残されていた面を使い、創作神楽として活動を進めるとともに、新津地区で明治時代に途絶えたといわれている獅子舞を取り入れ、新しい神楽として伝統を継承していくことを目指しています。本社は大原八幡神社。



天神かぐら

てんじん
かぐら

苅田町

KANDA 天神かぐら団

昭和54年、地元青年団を中心に綱引き神楽を舞ったのがきっかけで結成されました。翌年、面や衣装を借りて舞ったところ好評を得ました。以降、岩や蛇を自作し、「岩戸」や島根県の「石見神楽」をモデルにした「大蛇」も大変好評です。本社は菅原神社。



「ほうのうかぐら」

奉納神楽

神楽豆知識



南原神楽

みなんぼる
かぐら

苅田町

「国指定重要無形民俗文化財 豊前神楽」
南原神楽講

昭和37年に神楽を奉納したのを最後に中断していましたが、平成15年に扇谷神楽(みやこ町)の指導により復活。今では神社での奉納や地域の行事に参加するなど、地域の方々に愛されるよう活動に励んでいます。後継者の育成にも励み、基本に忠実であることを心がけています。



「いちばんかぐら」
壹番神楽

幣と扇を持った舞人が登場して舞う直面の採物神楽である。四人で舞う厳粛なもので、東方の句々廻馳の神(木の神)、南方の軻遇突智の神(火の神)、西方の金山彦の神(金の神)、北方の罔象女の神(水の神)及び中央の埴山(安)姫の神(土の神)の五行神を拝み奉る舞いである。大麻舞、米撒神楽、撒米神楽、折居神楽、御福神楽、四人神楽、御福、小神楽とも呼ばれる。



「たぶさかぐら」
手総神楽

最初は幣と扇を持って舞い、続いて二束の笹に持ちかえて舞う直面の採物神楽である。壹番神楽と同じ目的であるが、これは執物に笹を使用して神楽拝殿及び四方を祓い清める優雅な一人舞いの神楽である。笹や榊などは、神への採物として、また露払いの目的で古くから用いられていたようである。笹を振ると「サラサラ」と音を立てるが、この音は神の囁きと考えられている。また、笹によりすべての禍、罪穢を禊ぎ払う悪魔祓いの舞とも言われている。手草神楽、手笹神楽、笹神楽、手房神楽とも呼ばれる。



写真：木寺一路



「ぢわりかぐら」
地割神楽

地割神楽は、東方太郎(東)、南方二郎(南)、西方三郎(西)、北方四郎(北)、中央太郎(中央)及び神宣の六人が登場する直面の採物神楽である。五行では、東は春、南は夏、西は秋、北は冬、中央は土用の季節にそれぞれ配属される。すなわち、地割神楽は、春夏秋冬の順調な輪廻・循環を促して、五穀豊穡、天下泰平等を祈願することを主な目的として行われる。五行、五業とも呼ばれる。



「いわとびらき」
岩戸開

須佐之男命の横暴に立腹した天照大御神が天の岩倉に姿を隠したため、日本は常闇になって至る所で禍が生じるようになった。このため、八百万の神々が天の安天原に集まって天照大御神を天の岩倉から出すことについて協議した。そこで、知患者の思兼の指示により天照大御神を天の岩倉から出すため岩戸の前で舞うのがこの岩戸開である。天照大御神が再び姿を現したため高天原も、葦原中国も自然に以前のように明るく照り輝くように、世の中が平穏になったとする記紀に基づいたストーリーであり、この様子を神楽化したのが、この岩戸神楽といわれている。岩戸前、岩戸神楽、戸前とも呼ばれる。



「みつきかぐら」
貳仙神楽

古事記や日本書紀で知られる天孫降臨、すなわち天津神である邇邇芸命の使者である天鈿女乃命(幣方)と国津神たる猿田彦乃命(鬼)が天の八衢で出会った場面を神楽にしたものであり、猿田彦乃命は天孫の道案内としての役を担うと言われていいる。御先神楽、神宣舞い上げ、注連切、二ノ切、舞上、返拝とも呼ばれる。



「ゆみしょうかぐら」
弓征護神楽

神楽拜殿を祓い清める目的で舞う四人舞いの直面の採物神楽である。装束は毛頭、千早姿で、手に弓矢を持って軽快なリズムに乗って舞う神楽である。成弦とは、白木の弓の弦を鳴らすことによって、目に見えぬ矢で目に見えぬ世界の物怪を射ることである。弓矢を四方(東、西、南、北)及び中央に向けて射るのは、各方位の邪神(悪魔神)を祓い除ける魔除けの意味を持っている。弓正号、弓正護、弓証護とも呼ばれる。

「さんじんかぐら」

三神神楽



三柱の神が登場して舞う直面の採物舞である。山の神、田(里)の神、海(水)の神が集まり、豊作を感謝し、喜び合う神楽である。餅神楽とも呼ばれる。

「つるぎかぐら」

剣神楽

剣神楽は一人で舞う採物神楽である。直面で毛頭を被り、千早と裁付袴を着て舞う非常に激しい神楽である。まず、四方を祓い清めるため、リズムカルな囃子によって幣と扇で舞い、続いて、襷の舞をしたのち襷がけをして、剣を両手に持って東、西、南、北の各四方に切り込み悪魔(悪霊)を払うのが目的である。

「ぼんかぐら」

盆神楽



この神楽は別名「米神楽」とも言い、先ず扇子の舞で四方の神々を礼拝したのち、襷を持って同様に四方を礼拝する。米を入れた盆を片手に持ち曲芸的な舞をし、参拝者を楽しませる。盆神楽は、日本人の主食である米の豊作を祈願したり、米を今日に伝えてくれた祖先への感謝の意を込めて行う神楽である。盆舞、米神楽、御式(折敷)舞とも呼ばれる。

「みだれみさきかぐら」

乱駈仙神楽



舞は駈仙神楽とおなじであるが、鬼二人、幣方二人で舞う神楽である。そのため拝殿はにぎやかになり神楽が盛り上がる。駈仙神楽では、幣方と鬼が仲直りし、肩を組んで跳ね回る(これを「やばやほ」と呼んでいる)。この時、鬼は喜んで参拝者の赤ちゃんを抱いたり、子どもを追い回したりし、里神楽を盛り上げる。この「やばやほ」のとき、「みかん」や「お菓子」を入れた俵を滑稽な動作で開けて参拝者にふるまい、豊作をお互いに喜び合う神楽でもある。乱御先とも呼ばれる。

「つなみさきかぐら」

綱駈仙神楽



綱駈仙神楽は、鬼面をつけた駈仙と幣方が舞う駈仙神楽と同じ舞であるが、「やばやほ」をしたのち、蛇が登場し幣方を蛇が守る役をする。一般に蛇頭に布製の蛇をもちいるが、ワラで作った蛇を使用する神楽団体もある。鬼と蛇の掛け合いが見所である。綱御先、綱切とも呼ばれる。



「おろちたいけん」
大蛇退治

大蛇退治は、古事記をもとに神楽化したものである。先ず、足名椎、手名椎、稲田姫が舞い、次に須佐之男命が登場して、八俣の大蛇を退治して姫の命を助けることを約束する。そこで、須佐之男命は足名椎、手名椎に何度も醸造した強い酒（おりふね）を作らせ、この樽酒を二神が運んでくる。目的地に運ぶこのユーモラスな所作が皆に親しまれている「樽かき」である。そして、目的地に酒を運んだところで大蛇が現れる。大蛇は猛然と須佐之男命に襲いかかるが、強い酒に酔った大蛇は、ついに須佐之男命に退治される。これにより、五穀豊穡、天下泰平、子孫繁栄を祈る神楽と言われている。蛇神楽とも呼ばれる。



「かんむかえかぐら」
神迎神楽

駄仙神楽は、邇邇芸命が天孫降臨する際の天鈿女乃命と猿田彦之神の出会いの二人舞であるが、神迎神楽では、さらに随神を加えた舞であり、本来は道路で行われ別名「道神楽」とも言われている。勧請幣が邇邇芸命であり、御幣を持った者が天鈿女乃命、大刀、小刀、長刀を持った者が随神である。まず、天鈿女乃命と随神が幣舞をしたのち駄仙が登場する。続いて、随神（大刀、小刀、さらに長刀）と争い、最後に天鈿女乃命と立ち会って駄仙が道案内に来た国津神の猿田彦之神であることがわかり、仲直りをし、道囃子のリズムに乗って駄仙を先頭に天降るところで終了する。



「ゆだてかぐら」
湯立神楽

湯立神楽は、神社の境内等に斎庭を設営して行われる。斎庭場を清める舞、陰と陽（天と地）の融合・交合、五行の輪廻を祈る駄仙神楽、四方を祓い清め、穢れを取り除くための神随神楽、火と水の融合を祈る火鎮神楽に分けられる。湯立神楽は、いたるところに陰と陽（天と地）の調和・融合・交合を祈り、順調な五行の循環を祈る場面があり、大規模な祈祷色の強い神楽である。

豊前市



道の駅「豊前おこしかけ」

豊前海近海で採れた新鮮な魚介類を販売する朝市のほか、洋風屋台村では海の幸、山の幸を活かしたオリジナル料理を提供しています。

[住] 豊前市四郎丸1041-1 [休] なし
 [営] 8:00~19:00(4~10月)
 8:00~18:00(11~3月)
 TEL 0979-84-0544



苅田町



JA福岡京築苅田農産物直売所

山間部の白川地区で栽培される「夢つくし」の中でも減農薬米特別栽培米や等覚寺の松会みそが人気商品。

[住] 苅田町京町1-12-1 [休] 年末年始
 [営] 8:30~18:00(夏期) 8:30~15:30(冬期)
 TEL 093-436-1040

行橋市



行橋市観光物産情報コーナー

JR行橋駅内にある物産情報コーナー。行橋市内の観光情報や、行橋市のご当地スイーツ「美夜古ジェラート」などの物産品の販売を行っています。

[住] 行橋市西宮町2-1-1 [休] 年末年始
 [営] 9:00~19:00
 TEL 0930-25-0086

みやこ町



みやこ町歴史民俗博物館

夏目漱石の門下生、小宮豊隆の資料を常設展示しているほか、みやこ町が誇る文化遺産をご観覧いただけます。

[住] みやこ町豊津1122-13
 [休] 月(祝日の場合は翌日)、年末年始
 [営] 9:30~17:00(入館は16:30まで)
 大人(18歳以上)200円、小・中・高100円
 TEL 0930-33-4666

豊前市



うみてらす豊前

水揚げされたばかりの魚介類の販売のほか、豊前海が一望できるテラスで食事を堪能できます。

[住] 豊前市宇島76-31
直売所四季旬海
 [営] 9:00~17:00 [休] 火
 TEL 0979-64-6717
漁師食堂うのしま豊築丸
 [営] 11:00~14:00(なくなり次第終了) [休] 火
 TEL 0979-82-2620

上毛町



道の駅「しんよしとみ」

「大ノ瀬官衙遺跡」に隣接し、充実の品揃えを誇る地元産の新鮮野菜が魅力。敷地内には、上毛町産の野菜を使った本格ナポリピッツアのお店「ピツェリアフィエロ」も。

【住】上毛町大ノ瀬304-1【休】なし

【営】8:00～18:00

TEL 0979-84-7077

みやこ町



みやこ町農林産物直売所「よってこ四季犀館」

季節ごとの新鮮な野菜や果物、ドレッシングなどの加工品がならびます。隣接するうどん処「旬犀庵」では、季節野菜のてんぷらがおすすめです。

【住】みやこ町犀川生立54-1【休】1/1～1/4

【営】8:00～18:00【旬犀庵】11:00～14:00

TEL 0930-42-3339

築上町



築上町物産館「メタセの杜」

築城基地名物「隊員食堂カレー」が人気商品。メタセコイアの木々に囲まれた憩いの空間です。隣接する芝生広場には、大型遊具もあります。

【住】築上町弓の師765【休】1/1～1/4

【営】8:00～18:00

TEL 0930-52-3828

吉富町



JA築東地区ふれあい市

鮮度抜群の野菜や果物、魚や肉類も豊富に揃っており、中でも生花が人気です。地元ならではの季節商品や苗も充実しています。

【住】吉富町幸子476【休】年末年始

【営】7:00～18:00

TEL 0979-25-3570

築上町



旧蔵内邸 国指定名勝(平成27年3月指定)

国の名勝である「旧蔵内邸」。各部屋からは園池を中心とした優美な庭園が一望できます。

【住】築上町深野396

【休】水(祝日は営業)、12/28～1/4

【営】9:30～16:30(入場は16:00まで)

一般(高校生以上)300円、小・中100円

TEL 0930-52-2530

上毛町



さわやか市「大平」

上毛町産の野菜・果物のほか、年間5万本売れるという「チムニーパン(煙突パン)」が人気商品。クルミやレーズンなど多彩な味を食べ比べることができます。

【住】上毛町下唐原1621【休】不定

【営】8:00～19:00

TEL 0979-72-3945



京築まるごとナビ



<https://www.keichiku.info/>

神楽奉納スケジュール、会場などの詳細情報は、情報サイト「**京築まるごとナビ**」
でご確認ください。「京築まるごとナビ」では、京築地域の神楽の情報のほか、おすすめ
のイベントやグルメなどの情報を発信しています。

● 問合せ先 / 京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局 (福岡県広域地域振興課)
TEL 092-643-3178 FAX 092-643-3164



京築連帯アメニティ都市圏推進会議 神楽の里づくり推進協議会
(京築地域神楽団体・行橋市・豊前市・苅田町・みやこ町・吉富町・上毛町・築上町・福岡県)

2020年3月 発行